

2009.2.15

日本アジサイ協会

THE JOURNAL OF THE NIPPON HYDRANGEA ASSOCIATION

第20・21合併号 2008.12

# あじさい



パニキュラータ・グランデフローラ  
写真提供：コリヌ・マレ氏

## CONTENTS

- |                            |       |
|----------------------------|-------|
| 3. 「国際アジサイ会議 ベルギー」に参加して    | 杉本 誉晃 |
| 7. 第11回総会報告                |       |
| 15. 北九州のヤマアジサイ その2         | 野村 博民 |
| 14. 東伊豆のガクアジサイ             | 平澤 哲  |
| 16. ありがとう★紫陽花コンサート         | 浦東 直美 |
| 21. コリヌ マレー著 HYDRANGEA の紹介 |       |
| 24. 一関市長より御礼の手紙            |       |
| 25. 事務局だより                 |       |

## 「国際アジサイ会議 ベルギー」に参加して

杉本 誉晃

2005年のある日、一通のエアメールがベルギーから届いた。「2007年国際アジサイ会議」のご招待であった。その後2007年春になって、滋賀大学上町先生より「ベルギーでの国際アジサイ会議で講演するのだが、会報で参加者を募集しては？」とご連絡をいただいた。

ベルギー……、日本人にはなじみの薄い国である。会報18号で募集したが、案の定参加者は鈴木美智子理事と私だけであった。

8月16日～19日の国際アジサイ会議に出席するため、鈴木さんと私は前日の8月15日猛暑の成田を飛び立った。オランダ航空アムステルダム行き、12時間のフライトは老体にはきつい…。関空からの便の上町先生ご夫妻とはアムステルダムで合流した。プロペラ機に乗り換えてベルギーまで1時間。しかし飛び立って間もなく乱気流でがたがたと揺れながらのフライトとなり、2度大きく乱高下…あちらこちらで悲鳴が上がる。できれば2度と乗りたくはないが帰りも同じコースである。何とか無事フライトは終わり列車、トラム(路面電車)へ乗り継ぎゲントへ到着。東京から約20時間の道のりであった。

初日の16日、会場であるゲント大学に着くと、フランスのマレ夫妻(ロベール・マレ氏とコリヌ・マレ氏)と3年ぶりの再会を喜び合う。

受付をすませるとバスでベルギーアジサイ協会の保存園の見学会である。保存園に着くとまずパニキュラータ(ノリウツギ)が見事に咲き誇っているのが目に入る。コリヌ・マレさんから8月はパニキュラータが見頃であるから保存園見学会には必ず出席するようにとFAXメールをいただいていた。ここ2回のヨーロッパは7月だったので、こんなに多くのパニキュラータを一度に見られるのは初めてである。白、淡いピンク、濃いピンク、赤、濃い紫……。残念ながら日本の関東以西の平地ではこの見事な花の色は見られないであろう。こちらの夏の気温は日中で24～25℃、夜間は14～15℃。羨ましい気温である。花の色も日本の高冷地ではミナズキ等のように花が老化してアントシアニンが蓄積して赤くなるが、この地では咲き始めから色付く。

そのほかアジサイは中国原産種、北米原産種、日本の園芸種、山アジサイ等も数多く植栽されている。

17日はいよいよ本会議である。上町先生、コリヌ・マレさんともに今日の講演である。私たちは講演会場最前列に席を取った。本会議についてのレポートは上町先生にお任せするとして、興味深い話を一つ二つ。

ネパールの研究者の講演で、ヒマラヤから中国側に17～18種類、ミャンマー側に7～8種類のアジサイが自生しているとの報告があった。

そして上町先生の講演から。日本のガクアジサイ、山アジサイ、エゾアジサイの地理的分布についての解説があった。これにより上記3種類が自生しているのは日本であることが広く認知されたことと思います。hydrangeaに熱中気味のヨーロッパの研究者においても、その交配親は中国原産と思こんでいる事が少なからずあるらしく、何人かの著名なアジサイ研究家が来日した折、その説が度々飛び出し驚いたものです。

そしてこの誤解こそが私たちの「日本アジサイ協会」を立ち上げる原動力となったのです。

最終日19日はフランスのノルマンディのマレ・コレクションの見学会です。

マレ・コレクションは世界各地から原種、園芸種1500種以上のアジサイが植栽してあり、私は今回で3度目の訪問である。バスで5時間、ロベール・マレさんの生家パーク・ド・ムチェに到着。フランスアジサイ協会の皆さんで昼食の用意をして出迎えてくれた。そして共通の友人を介して、九州大学名誉教授の比留木先生(国際ツバキ協会副会長、日本ツバキ協会副会長で現在パリ在住)も待ち受けておられた。

パーク・ド・ムチェには1904年ロベール・マレさんの祖父が植栽したオタクサ、姫アジサイ、トウキョウ・デ・ライト(ガクとヤマの交雑と思われる)がある。ヨーロッパの土壌では姫アジサイはピンク色になるのでロゼアの品種名になっている。2004年、奇しくも植栽されてちょうど100年目の花の盛りに坂本副会長、



八丈千鳥 品種登録出願第20176号



伊豆の紫風

鈴木理事、安西監事、座間さん、私で訪問し、感激したことを思い出す。残念ながら今回は36haの広大な庭園を見る時間はなく、大邸宅の周辺のみで見学会となった。しかしながら2~3mのパニキュラータ並木は花盛りで圧巻であった。少し離れたマレ・コレクションに移動。樹林の中で山アジサイ、タマアジサイ、ラセイタタマアジサイ、アスペラがよく咲いている。ここでも、ヨーロッパで改良されたパニキュラータが私たちの目を楽しませてくれる。日本のミナズキ、キュウシュウダルマ等も目に付く。あいにく雨の中の見学となり、時間は瞬くすぎ、記念撮影。そしてバスは深夜にゲントのホテルに戻った。

翌日は鈴木さんとゲントの街の観光。今回の開催地であるゲントは、中世からの古い建物と現代が見事に調和した「国際アジサイ会議」にはうってつけの美しい街であった。3つの塔（鐘楼、聖ニコラス教会、聖バーフ大聖堂）を中心に歴史的建造物が多く、街中を運河が滔々と流れている。ブルージュと並ぶ北方ルネサンス発祥の地でもあり、正直私にはわからないが聖バーフ大聖堂にあるファン・アイクによる祭壇画「神秘の子羊」はフランドル美術の最高傑作と呼ばれているようだ。現在は工業地帯として栄えているが、花の都と称されるほど園芸生産も盛んな街である。5年に一度城砦公園にあるフローラル・パレスで、ベルギー王立園芸協会主催のもと国際花博覧会（Floralies of Ghent：ゲント 花の祭典）が開催されるそうである。

そして翌21日、おそらく私にとって最後のヨーロッパ旅行でフランスのアジサイ関係者の元に立ち寄りなかつたことに未練を残しながらも、鈴木さんとともに帰国の途についた。

ゲント大学の会議場に展示されていたアジサイの出品者ドイツのSynergy Breeding GmbH社の社長ご夫妻と親しくなり、出品の展示品「Lavblaa」の一鉢をいただいていた。成田で植物検疫を受け空港を出るとそこは37.4℃、酷暑であった。帰宅して家人に聞くと、その数日前には40.8℃と東京の最高気温を更新した日が数日続き、涼しいベルギーにいた私は大変羨ましがられた。いただいた「Lavblaa」は実に花保ちが良く10月末まで咲いていました。（会報19号上町先生撮影のNO.4の展示品）また展示場での咲き始めは白でしたが、淡いブルーのさわやかな花となりました。

今回、「日本アジサイ協会」として国際会議に参加できたことは大変有意義なことでした。また後日、ロベール・マレさんから「上町先生の研究はすばらしい。コリヌの研究とも合致している。今後とも期待します。」とEメールが入りました。そしてまたその中に、私をフランスアジサイ協会の名誉会員に全会一致で決定したと大変光栄な報告もありました。

今回も大変多くの方々にお世話になりながら、無事にアジサイの旅が出来ましたことを感謝しております。



ベルギー王宮



(左) ゲント大学会議場最前列、鈴木さん、杉本、通訳。

後ろの席にニュージーランドのグリーン・チャーチ氏ご夫妻。



(右) 国際アジサイ会議のコーディネーター、(白いシャツ)ベルギーのルーク氏と杉本、通訳。



フランスのロベール・マレ氏と杉本。



パニキュラータ。見事な花房。



(左) 日本で人気の秋色アジサイに変色したマクロセラ（品種不明）



(右) パニキュラータの並木。後姿は鈴木さん。



フランスのロベール・マレ氏の生家。パーク・ド・ムチェ。36ヘクタールの広大な庭園。



マレ・コレクションにおける記念撮影。マレ・コレクションは生憎の雨で撮影できませんでした。



国際会議場に展示されたドイツの「Lavblaa」が10月末まで私の家で咲き続けました。会報19号紙上町先生撮影のNo.4の一鉢です。

## 平成二十年度日本アジサイ協会総会

平成二十年七月十日、六月に大地震にみまわれ余韻醒めやらぬ一関市の文化伝承館において総会が開かれた。総会に先立ちみちのくアジサイ園の伊藤理事の案内で一関市役所を訪問し浅井東兵衛一関市長に総会会場を引受けて下さった御礼を申し上げ今回の地震被災へのお見舞金を手渡ししました。市長より丁寧なお礼の手紙を頂戴しましたので別途掲載を致しました。

今回の総会の模様は新企画出版局の取材が行われ『自然と野生蘭』九月号に掲載されましたので承諾を得て記事を転載しました。事務局からの報告は要旨のみにとどめます。

司会・進行	安藤理事	
開会の辞	井関理事	
会長挨拶	池田副会長	
来賓挨拶	一関市長代理 岩淵甲治郎商工労働部長 小梨浩子日本アジサイ協会一関支部副支部長 柳橋新一一関市観光協会副会長	
議長選出	荒木副会長	
平成19年度事業報告	収支決算報告	池田副会長
平成20年度事業計画	予算案	池田副会長
監査報告	安西監事	
閉会の辞	伊藤理事	

全ての議事が承認されました。



総会の様子

日本アジサイ協会平成19年度事業報告

- 1、4月 「趣味の山野草」のアジサイ特集号編集に協力。
- 2、5月に入るとテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ホームページの取材・問い合わせに追われる。
- 3、5月 再度農水省種苗課にファイトプラズマについて説明。この時ファイトプラズマのアジサイが品種登録申請が出ているのを知り愕然とする。
- 4、5月 東大大学院教授難波先生より大学内にアジサイを植栽したいとの電話が有り、新品種20種程植栽。この時、品種登録申請中のファイトプラズマのアジサイが有り（農水省より持込）、難波先生と今後どのように生産を止めるか対策を検討。東大構内にファイトプラズマの隔離栽培場を作り手近の所で研究をしたいので、協会で病株を収集することに協力要請あり。
- 5、5月 鎌倉アジサイ同好会の自生アジサイ展を後援。
- 6、6月 豊島園あじさい祭り（東京都練馬区）後援。
- 7、東京都より今年も山崎理事宛に六義園のアジサイガイドの要請有り。
- 8、6月21日 岐阜県山県市の三光寺にて総会を開催。
- 9、6月下旬伊豆半島の自生アジサイ調査。例年の如く地元の土屋さん、平沢さん（名花城ヶ崎の発見者）、外岡さん、杉本の4名で行う。
- 10、8月15日～20日 ベルギーのアントワープ大学にて第一回国際アジサイ会議開催。協会より滋賀大学上町先生ご夫妻、鈴木美智子理事、杉本の4名が参加。上町先生がアジサイの分類について講演。帰国後、フランスのアジサイ研究者マレご夫妻より「上町先生の講演は非常にすばらしかった。コリヌの研究と一致している」とのEメールを頂きました。
- 11、府中市郷土の森博物館の品種保存園計画の打ち合わせに安藤、杉本が参加。
- 12、埼玉県越生町より同町のアジサイ園のファイトプラズマの調査依頼が有り、地元の会員伊藤安行氏と役場を訪れ町長、副町長、担当課長と打ち合わせの上現地調査を行う。2万株のうち80%がファイトプラズマの兆候が有り、抜根焼却する車以外方法がない旨を副町長、担当課長に報告。数年前より杉本と伊藤さんが全滅の危機と何度も町役場に警告したのですが、枯死の状態に有る株のみの抜根にとどまって最悪の事態となる。難波先生にも報告。先生も打つ手がないとの事でした。
- 13、(財)相模原市みどりの協会よりアジサイ豆図鑑の監修依頼を受け麻溝公園、北公園に植栽の品種を中心に200種以上の特集号となる。安藤、杉本。
- 14、栃の葉書房より山野草特集号のアジサイの部について監修依頼が有り。藤井副会長、杉本。

一関みちのくアジサイ園にて



みちのくアジサイ園入口



山本コーナー 故山本会長コレクション

日本アジサイ協会平成19年度収支決算報告書

自平成19年4月1日 至平成20年3月31日

項目	収入	支出	差し引き	内訳
前期繰越金	1,763,778			
会費(特別会員)	232,000			継続会員21名×10,000、新会員2名×11,000
会費(普通会員)	597,000			継続会員183名×3,000、新会員12名×4,000
会費(支部)	80,000			特別会員5名×9500、一般会員13名×2,500
雑収入	43,124			謝礼金、祝い金、利子
会報費		673,365		会報18号、19号の印刷代、編集謝礼、送料他
調査研究費		169,520		国際アジサイ会議、調査研究(ファイトプラズマ他)
通信費		61,045		会員通信費、送料、宅配費他
会議費		0		
事務費		17,000		事務用品、書類印刷代
図書費		0		
雑費		117,571		総会費用(バス代、謝礼他)、見舞金他
合計	2,715,902	1,038,501		
次期繰越金			1,677,401	

日本アジサイ協会平成 20 年度事業計画案

- 1、5月 インクリメント(株観光楽地区編集部よりアジサイの名所等の原稿校正の依頼。
- 2、NHK より日本原産のアジサイについての取材。
- 3、ファイトプラズマのアジサイが公設の園芸市場に大量に出荷されて居り4品種入手。何れも日本のファイトプラズマと異なるので、良く調べるとオランダで品種登録されたものが2種類あり、現在残りの2種類について調査中。病株は全て難波先生に送る。
- 4、例年の如くマスコミの電話取材に追まられる。
- 5、鎌倉アジサイ同好会による展示会後援。
- 6、農水省種苗課より日本から外国に渡り外国の品種名で日本に輸入されている品種の調査に協力要請。
- 7、東京都より山崎理事に「六義園」のアジサイガイドの要請あり。今年で3年目。
- 8、豊島園(東京都練馬区)アジサイ祭りの後援。
- 9、毎年継続の伊豆半島の野生種の調査を2日間行う(土屋、平沢、外岡、杉本)。200~300年の黒松が松喰虫により枯死。そのため常緑樹が繁茂し光線不足となり「城ヶ崎」に続いて「ヤマトアジサイ」別名「古代紫」の原木が残念ながら枯死。伊豆と東京で苗を育てているので、絶滅はまぬがれる。
- 10、平成20年度総会7月10日PM1:00~2:30 一関市一関文化伝承館。総会終了後「みちのくあじさい園」見学。地元の伊藤理事、一関支部のご尽力により市役所のマイクロバス2台をお借りする事ができました。
- 11、会報19号、1ページ~18ページ記載のファイトプラズマ調査予定。神奈川県箱根。
- 12、テレビ朝日より夜遅く「アジサイを食べて食中毒の患者が出たのでアジサイの毒について伺いたい」との電話があり、思わず「アジサイを食べる人がいるの?」と驚く。イタリア風の創作料理との事なので、どのようにして食べたか?会報13号に東京薬科大学名誉教授持田豊先生が「アジサイの毒性について」とのご寄稿を戴いて居りそのコピーをFAXで送り参考にしながら対応。
- 13、日本全国のアジサイの名所マップを2年位でまとめる予定なので会員各位のご協力をお願い致します。詳細は別紙参照下さい。過去に多くの名所が出ているが、行って見ると手入れが出来ていないでガッカリすることがしばしば有るので最近の実情をお願いします。
- 14、房総半島の自生のガクアジサイ調査、地元の元農業改良普及員山口勇氏(椿の友人)の協力で行う。
- 15、10月 会報20号発行予定。会員の皆様のご投稿をお願い致します。



みちのくアジサイ園園内

日本アジサイ協会平成 20 年度予算案

項目	収入	支出	差し引き	内訳
前期繰越金	1,677,401			
会費(特別会員)	202,000			継続会員 18名×10,000、新会員2名×11,000
会費(普通会員)	630,000			継続会員 190名×3,000、新会員12名×4,000
会費(支部)	80,000			継続支部 1支部(一関)
雑収入	2,000			利子
会報費		700,000		会報二回発行印刷代、編集謝礼、送料他
調査研究費		300,000		野生アジサイ調査、ファイトプラズマ関係他
通信費		10,000		会員通信費、総会案内、宅配費他
会議費		100,000		
事務費		50,000		事務用品他
図書費		10,000		参考資料他
雑費		150,000		総会関係他
合計	2,591,401	1,410,000		
次期繰越金			1,181,401	

## 第11回 日本アジサイ協会総会

期日：2008年7月10日（木）  
場所：一関市文化伝承館（岩手県）



アジサイと言えば、シーボルトがかつて持ち帰り、西欧で品種改良され再び日本に戻ってきた西洋アジサイが一般的だが、原種系のアジサイが今、注目を浴びている。今後、ますます自然界で‘銘品’に匹敵するような個体が発見されるであろう。今注目の植物であるアジサイ、その協会である『日本アジサイ協会』の総会の模様を紹介しよう。

去る7月10日（火）、岩手県一関市文化伝承館で『第11回日本アジサイ協会総会』が行われた。一関市といえば6月14日に岩手・宮城内陸地震が発生し、大きな被害をもたらした。この地震の影響で総会が中止になるのではという多くの会員からの問い合わせが多数事務局に寄せられたが、総会が行われた一関市文化伝承館や総会後に見学したみちのくあじさい園の被害は皆無で、無事に総会が行われた。また日本アジサイ協会から一関市に地震のお見舞い金が贈呈された。

日本アジサイ協会は1998年6月に、神奈川県鎌倉市鶴岡八幡宮で行われた『第1回日本アジサイ協会総会』で正式に発足した。初代会長は故・山本武臣氏。現在会員は225名（特別会員20名、普通会员205名）。今回の総会では、北は北海道から南は沖縄まで45名が参加した。

総会は井関醇一理事の開会の辞から始まり、日本アジサイ協会副会長の池田正弘氏、来賓の一関市市長代理、商工労働部長の岩淵甲治郎氏、日本アジサイ協会一関支部副部長の小梨浩子氏、一関市観光協会副会長の柳橋新一氏等が挨拶を行った。池田副会長からは『会長不在の今、どうかしなければと思っています。また今回の大地震で残念にも亡くなられた方にはお悔やみ申し上げ、被害にあわれた方にはお見舞い申し上げます。そんな中でこの総会のために会場を貸して下さった一関市の皆さまに感謝いたします』と挨拶した。来賓の一関市市長代理・商工労働部長の岩淵氏からは、一関市はアジサイの歴史を辿ることができる町で、みちのくあじさい園はこれからますます、観光地として定着していこうと、アジサイが一関市の観光に一役買っている功績に賛辞を述べていた。

役員選出の決議、平成19年度事業報告と収支決算、平成20年度事業計画案と予算案の報告後には、アジサイの栽培方法について熱い議論がとびかった。

沖縄から参加した会員からは、アナベルの剪定方法について質問があり、理事である安藤秀夫氏が丁寧に答えていた。関東地域では8月10日くらいまでに剪定すれば、翌年花が咲く。これはあくまでも関東地方のことなので、沖縄では定かではない。今年伸びた緑の枝の下から2節（今年伸びた緑の枝には、葉が4枚付いている状態、つまり花芽が4つ付いている）を残して剪定するのが一般的。また、徒長枝（花が咲かなかった枝）を一般的な剪定法の高さ相当まで切り詰めれば、株全体が同じ高さになり整った株姿になる。だいたい7月いっぱいを目安に剪定すれば良い、と説明していた。

一関市文化伝承館での総会終了後、会員はバスでみちのくあじさい園へ移動。各自、杉林に咲き誇るアジサイを堪能した。

みちのくあじさい園は日本アジサイ協会の会員でもある伊藤達朗さんが25年をかけて作り上げた珠玉のアジサイ園。JR一関駅から車で30分ほどいった約15ヘクタールもの広大な杉林に、約250種25,000株のヤマアジサイを中心にウツギ、エゾアジサイ、ガクアジサイ、西洋アジサイが群生している。杉林の傾斜に咲き誇るアジサイの群生は圧巻そのもので、日本一のアジサイ園であるのは間違いないであろう。杉林からの木漏れ日は一際‘アナベル’の淡いグリーンを美しく引き立て、日にあたればあたるほど装飾花と呼ばれる花弁が真っ赤に燃え滾る‘紅’は、妖艶な花容を呈していた。

また日本アジサイ協会の初代会長の故・山本武臣氏が集めたヤマアジサイの『山本コレクション』が、貴重な生きた資料として見学できる。今年は雨が少なかったために、花が小さく開花が遅れた。

毎年6月下旬から約1ヶ月間、みちのくあじさい園ではあじさい祭を開催している。約2kmの遊歩道を来

年はぜひとも歩いてみてはどうだろう。園内は休憩場所やトイレが数カ所用意されており、お年寄りや体の不自由な方のためにカートが導入された。園職員が運転しながら説明してくれる。

今でも、自然界で銘品に匹敵するような個体が発見されつつあるアジサイ。それに伴い、シノニム（異名同種）も増え、品種の混乱も間逃れない。品種の整理とここ近年の目覚ましいアジサイへの注目中、日本アジサイ協会の活動がますます重要になってくるであろう。

### 日本アジサイ協会 事務局（杉本誉見方）

173-0037 東京都板橋区小茂根5-3-11  
Tel 03-3956-8423  
Fax 03-3530-7707  
http://www9.ocn.ne.jp/~ajisai/

### みちのくあじさい園

園主 伊藤達朗  
021-0221 岩手県一関市舞川字原沢111  
Tel 0191-28-2349  
http://www.h4.dion.ne.jp/~mi-aji/  
開園時間：9:00?18:00（入園は17:30まで）  
土日、祝日は7:30~



参加者の質問に答える安藤理事。



沖縄県から参加した会員。



みちのくあじさい園。杉林の中に北米産のアルボレスケンス‘アナベル’が咲き誇る。

岩の白露についての経緯

- 1、福岡県の山草家三人が十年以上前にヤマアジサイの探索中に岩盤上の苔の中に自生している本品を一人が発見しました。発見時の状況は緑の苔に本品の白色葉が映えて大変美しかったそうです。
- 2、発見者三人のうちの一人である当地では著名な山草家の長老が葉の香りと口に含んだときの葉の味からヤマアジサイの八房と判定しました。
- 3、第一発見者は故山本武臣元会長に命名を依頼したところ、発見時の状況が思い浮かぶ正に絶妙な名前「岩の白露」と命名され、一関観光協会のアジサイ図鑑にもこの名前で掲載されました。
- 4、その後、本品は数年間忘れ去られた存在で他の発見者達は枯死させる中でこの長老一人が栽培を続けていました。  
私は四年前初めて本品と長老宅で出会ったが、当時私と長老は命名のいきさつは知らなかったため単に八房ヤマアジサイとして認識していました。
- 5、当地の一部山草家が本品を学術的な見地から貴重な品種であると注目する動きがある中で昨年本品の第一発見者と面談した際に一関市観光協会の図鑑掲載の「岩の白露」と写真掲載品が同じものであることの証言をもらいました。
- 6、本品は芽だし時の葉色は白色で次第に緑葉に変化する芸はあるが花は咲きません。

写真は長老が発見時から栽培している「岩の白露」を撮影したもので5号鉢植え、樹高は約1.5cm程度です。

八房とはどんな意味？

新企画出版局『盆材世界2004年2月号』より抜粋

【ご質問5】 同じく「八房〇〇〇」という八房とはどんな意味？

【お答え】 同じ植物・樹種でありながら、植物体全体が小型化する性質をもったものをいいます。この性質を「矮性」といい、小型化に変化することを「矮化」といいます。この場合の植物体全体とは具体的には、枝の節間が短くなり、枝の分岐数と芽の数も多くなり、葉も小形になって、樹高もきわめて低くなることをいいます。この矮性化した植物の別称が「八房性」なのです。

盆栽樹種でよく知られているものを具体的に挙げると、八房クロマツ、八房ゴヨウマツ、八房エゾマツ（アカエゾマツ）などがあります。樹木類だけでなく、草本植物にも八房性があり、草丈の短い小形の種類が知られています。

岩の白露



「岩の白露」：全形



↑葉の拡大



↑葉の比較。左から1円硬貨、岩の白露、八房ヤマアジサイ小糸、コガクウツギ



## 東伊豆のガクアジサイ

平澤 哲

伊豆半島のガクアジサイは、青色が濃く鮮やかな色彩をしています。その中でも、東伊豆は色にとどまらず花形にも変化が多く、毎年観察するたびに自然の造形の多様さに驚かされています。

東伊豆の海岸線の多くは山が迫っており、その崖などの日の当たる場所にガクアジサイが自生し、毎年きれいに咲く姿を見ることができます。

気候は海岸沿い特有の穏やかな気温で、ハマユウが自生し、すぐ近くでナツエビネ・フジザクラが育っている寒暖の差が少ない地域です。降雨量が多く、林間では湿気の多いときが常であり、厳しく乾燥する期間は少ないと思います。

東伊豆海岸に自生するガクアジサイの形態は生育する場所により変化が見られ、一日中日の当たる岩場から明るい樹下まで、その場に適合した葉・ガク片の厚み、幹の太さ、樹高をもっています。日の当たる土の無い岩場の環境が一番厳しく、葉・装飾花共に厚く、樹高は低く花を満足に咲かせられない株も見受けられます。

### 日照の強い場所

ごろた石の浜：普通～厚葉、樹高はあまり高くない

岩場：厚い葉・ガク、開花数は少ない、装飾花は小さく少ない、樹高は低い、太い茎

### 樹下

谷間：樹高は高い。例：城ヶ崎・ヤマトアジサイ

岩場：普通～厚葉、樹高は低～高。例：伊豆の華・Shamrock

林内：薄葉～普通葉、樹高は高い、狭葉・細い茎も見られる

花の色は他地方より濃色の澄んだ青色を基本とし、波のしぶきがかかるような場所ではピンクに変化することもあります。白花は数ヶ所で見られ、全体が白色や両性花にピンクが入る花などがあります。青色に白色の筋が入る絞り咲きの多い地域もあり、それらは小輪～大輪まで見られ、中にはガク片周辺が不規則に変形する花も見られます。その他に、中心部（青）と外側（紫）が異なる複色、終晩期になると中心部に紅紫の模様が入るものもあります。



花（ガク）は小型～中型が多く、今まで見た中では小花の直径で7cmが最大です。花柄が分かれて二花咲くアジサイの中に、遅い花がより小さいので大小並んで咲いているものも見ました。周辺がノコギリ状のナデシコ咲きも所々で見ますが、大輪の場合が多いと思います。花卉（ガク片）の数は通常3～5弁、八重咲きでは12弁前後、他に4～11弁（半八重）、5～6弁。大多数の装飾花が3弁も数株見ることができます。

八重咲きは4種類見つかっています。ガク片が狭い方から、伊豆の華（現存）・Shamrock（現存）・無名（自生地不明）、そして城ヶ崎（枯死）です。また、半八重1種は上記八重と離れた場所にあり、非常に不規則な形の4～11弁を一輪の花の中で咲かせていました。



テマリ咲き（ホルテンシア型）はニヶ所に数株ずつ、離れた場所でニヶ所一株ずつが自生していました。そのうちのニヶ所は松くい虫で枯れた松を伐採し、日光が良く当たるようになった影響で周囲の常緑樹が大きく育ち、3株あったうちの一番海側の1株が弱りながらも生きている現状で、大株に育ち頭の上でたくさんの花を咲かせていたヤマトアジサイ（前会長山本氏命名）は枯れてしまいました。他のニヶ所では最近周囲を管理していることもあり、狭い範囲の中で中株が3、実生の小株が3個体、元気に育っています。他の数ヶ所で完全なテマリ咲きになりきらず、中心部や部分的に両性花が残る個体も見つかっています。



通常では側枝はニヶ所から4本ですが、2、3ヶ所から1～2本ずつで段咲きを見ることがあります。広い範囲に転々と見られるので、できやすい変異かもしれません。テマリ咲きの中にも段咲きの枝を持った株があり、今までに無い縦に長い立体的な花型となっています。

連弁咲きは南伊豆で時々見かけましたので注意しているのですが、まだ見たことがありません。

子持ち咲きは見たことがありませんが、八重咲きが遅く8月に開花すると、子持ちさらに孫持ちになることがあります。子持ちではなく、花柄が分かれ2～3花咲く株があり、それが咲きそろって多花咲きの華やかなガクアジサイとなります。

自生地で斑入り葉は見えていません。アジサイの生垣より枝変わりで一花だけ斑入りが出現しましたが安定した斑ではなく、これからの選抜により固定させる必要があります。

照り葉が一般ですが、まれに光沢の無い葉がみられます。それらは細い茎で小さな葉、樹の下に自生している場合が多いとおもいます。

以上のガクアジサイを東伊豆で見ることができました。今までにごく狭い範囲を見ただけで、全体を見たわけではありません。今後、見ていない北側と南側を調べなければならないと思っています。

東伊豆で発見され命名されたガクアジサイは4種を確認しています。

1、「伊豆の華」は飯田岳美氏（当時英国連邦軍人墓地に勤務）が発見。常緑低木の株元で2株に分かれ、それぞれが樹高1m強であった。海から直接切り立った崖の上の厳しい環境の中で生育しており、現在でも同じ大きさです。

2、「城ヶ崎」は伊豆の華と同様に、海岸の谷間で私が発見。当時は2mを越す大株であったが、5、6年前に見たときには、周囲の木が大きくなり近くのアジサイと共に枯れていた。

3、「ヤマトアジサイ」は同年に岬と岬の間の長い谷間で私が発見、前会長山本氏が命名。海へ下りる細い道の横で、2m50cmを超える大きな株が上下2株に分かれており、頭の上で同じテマリ花をたくさん咲かせていた。城ヶ崎同様に日が当たらずに枯れるが、それより数メートル海よりに育っていた別株のテマリ咲きは、今でも弱りながらも花を咲かせています。

4、「Shamrock」は城ヶ崎を発見した翌年に私が発見。樹高2mの横に広がった大株でたくさんの花を咲かせ

ていました。現在は、近くの枯れた松を伐採した時の影響で痛みがありますが、周囲が明るくなったので今後の生育は好転すると思います。アメリカではすでに一般的に販売されています。



伊豆の華と Shamrock は崖上の中低木が生える岩場に自生し、岩の間に根をのびして生育しているため、非常に厳しい環境でありながら今でも残っています。同様に、海岸の岩場でガクアジサイ以外は海浜植物しか生えない所では、より厚葉・厚ガク片になったアジサイが自生しています。樹高2m位で横に広がり何年たっても同じ大きさですが、枯れることなく存在しています。一方で、城ヶ崎とヤマトアジサイは腐葉土がたまった谷間にあり、湿気も多い場所ですので2mを超えた大株でしたが、枯れてしまいました。環境が良いと思われる場所は、松くい虫の被害で松が枯れると、今まで松の下で十分に目が当たらなかったヤブニッケイやヤツデ等の常緑樹が強い日を受けようになり、5、6年でアジサイを追い越してしまいます。そして、日をさえぎられた場所では、アジサイの群落が数年のうちに消えてしまいます。ガクアジサイにとっては、

私たちが厳しいと考える場所ほど生きる可能性があり、本来の生育場所かもしれません。

伊豆の華と城ヶ崎は発見されてからすぐに飯田岳美氏の父である久氏が枝を御殿場農園に送っています。その前に、飯田氏から私に御殿場農場と伊豆海洋公園のニヶ所に譲るが、農園にはこのどちらかに城ヶ崎の名前を入れてもらうとの相談があり、了解しました。その後、御殿場農場では大きい花を「城ヶ崎」、小さい花を「伊豆の華」の名前で販売しています。このいきさつから、命名者は城ヶ崎が飯田久氏、伊豆の華が御殿場農園となるでしょうか。

ヤマトアジサイは、山本武臣先生の命名です。詳しくは本会会報第8号をご覧ください。

Shamrock はフランスのアジサイ研究家、Corinne Mallet さん命名のようです。彼女が日本にアジサイの自生地を調べに来たときに私が海岸を案内し、現地より八重咲き、テマリ咲きをはじめ変わった種類の枝を持ち帰りました。海外の専門書を見ると酷似した花に「Tambour Major」と「Etoile Violette」があり、同じアジサイかもしれません。

#### 海岸から離れた地域に生育するアジサイ

海岸線より数百mから数km山側にガクアジサイやアマギアマチャと異なるアジサイが生育しています。外観はガクアジサイとヤマアジサイの中間で、花色は白から青まで見られますが、正式な調査がされていないので不明種です。この仲間は熱海市より東伊豆一帯、南伊豆までつながり、主に川沿いや湿気のある崖下に見られます。また、南伊豆では海岸までつながって自生していることもあり、変異が大きく、ヤマアジサイからガクアジサイに酷似した形態まで見ることができます。

#### 保護の必要性

戦後急速にまん延した松くい虫は、これまでの安定した自然環境を変え、枯れた松周辺の谷部に生育するガクアジサイを消滅し続けています。ここ数十年の間だけでも、いくつもの群落が消えてしまいました。今のうちに、貴重だと思われるアジサイは繁殖して保存する必要があるでしょう。また、より住宅地に近い場所に生育する不明種のアジサイは、場所により開発の影響で絶えるかもしれません。

アジサイが咲く頃になると、近くの海岸を歩いてみます。その中で見ることでできたガクアジサイが、海外の庭で同じ花を咲かせていることを思うと、ここが「世界のアジサイのふる里」であることを感じます。そして、いつまでも自然の中で育つアジサイの姿を見ることのできる、このふる里が続くことを願っています。

2008年9月3日

## ありがとう★紫陽花コンサート

野州南山焼 浦東 直美

夏を間近に控えた七月の日曜日、古い納屋を改修した小さなスペースには、入りきらないくらいの人で溢れていた。山裾の小さな焼き物工房。雪深い新潟から移り住んで四年目。思いのほか多くの人たちの手を借り、力を借りながら、少しずつ地域になじんできた。

感謝の気持ちを形にしたいと、小さなコンサートを企画した。軽やかなギターの調べと、澄んだ歌声の二人のユニット。二人の申し出からこのコンサートが実現した。



タイトルは『ありがとう★紫陽花コンサート』。携わった誰もが、お互いに、感謝の気持ちをかたちにしてくれた。ステージには、古い藤製の乳母車をリメイクした、大きな花器。そこに、数十種類の紫陽花が大胆に届け込まれる。色とりどりの紫陽花が、まるで野山に咲き乱れるようにそよんでいる。ひとつひとつは、はかなげな可憐な原種の山紫陽花。それが集まってハーモニーを奏でるように、見事な舞台装花となった。

演出を買って出てくれたのは縁あって行き来するようになった、レストランのオーナー。古い煉瓦や枕木、廃材といわれるものを甦らせ、風景に溶け込む素敵な庭を演出する稀有な作庭師としても定評がある。\*

その庭には、彼が日本各地を捜して集めた紫陽花の希少な品種が咲き乱れ、木漏れ日の下の緑陰に、可憐な姿を楽しませてくれている。この美しい中庭に魅せられて、行き来が始まった。今年の入夏期には、丹精した紫陽花を挿し木にして分けてくださった。急な斜面を背にし、鬱蒼とした工房を、紫陽花あふれる山にしたいという私たちの願いを、オーナーが後押ししてくれた。

コンサート会場は次第に夕暮れの間包まれて、足元にキャンドルが揺らめきだす。賛美歌の音色に心洗われ（アヴェマリア）、懐かしい童謡をともに口ずさみ（浜辺の歌、他）、軽快なリズム（わたしの青空）に拍子をとる。小さな空間なんらでこそその客席とステージの近さ、一体感。手伝ってくれた全ての人の、気持ちが一つになって、このコンサートの実現を喜んでるように思えた。

夏が過ぎ、挿し木にした紫陽花たちが元気な根っこを伸ばしている。この山を、可憐な山紫陽花で一杯にする日を心待ちにしている。

※

草演家 沼尾光三氏

東京オリンピック前後8年間に渡り、草月流家元にて師事、草月流一級師範。日本アジサイ協会設立に携わり、当初から、同協会正会員。栃木市在住（レストラン GOSARO オーナーシェフ）。

節分草で有名な花の里山 星の情報館

TEL: 0282-31-2719 FAX: 0282-31-2721

住所：〒328-0201 栃木市星野町 452  
 星野の自然を守る会 会長 沼尾光三

野州南山焼

佐野市野上地区にて工房主宰。古い民家を手直ししつつ、作陶活動を展開。日常の暮らしを楽しむ生活陶器を中心に制作している。



銀梅草の珍しいピンク咲き



ハイエススターバースト



畑に咲くクレナイ山アジサイ

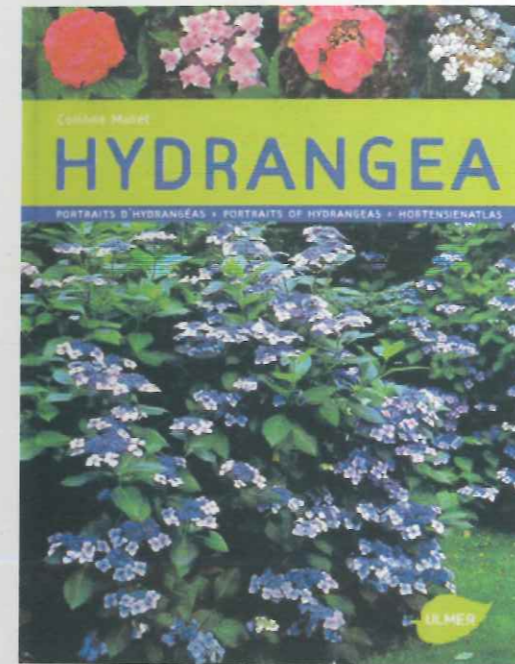


エゾアジサイ

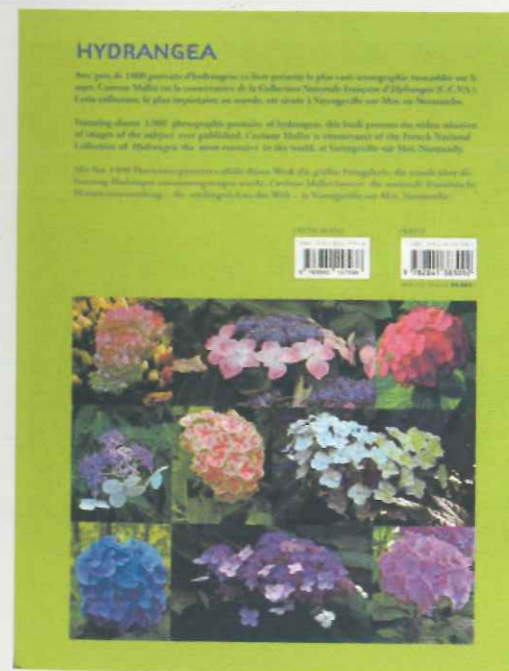
コリヌ マレ著 HYDRANGEA の紹介

日本アジサイ協会の会員であるフランスの コリヌ マレさんがアジサイの本を出版されました。アジサイ全般に敷衍した207ページに亘る大部の品種すべてにカラー写真を添えた写真集です。特にノリウツギは色の乗りがよく日本では見られない咲きぐあいです。このノリウツギを中心にマレーさんの了解を得て内容を会報で紹介します。

マレーさんは故山本武臣元会長と親交があり来日もされ、各地のアジサイの自生地を探訪された経験も持ちです。



表紙



裏表紙



ノリウツギを中心に



▲ *H. paniculata* 'National Arboretum'



▲ *H. paniculata* 'October Bride'



▲ *H. paniculata* 'Papillon'



▲ *H. paniculata* 'Phantom' (July) (July 2004)



▲ *H. paniculata* 'Phantom' (Aug) (August)



▲ *H. paniculata* 'Phantom' (September) (September)



▲ *H. paniculata* 'Pink Diamond'



▲ *H. paniculata* 'Pink Diamond'



▲ *H. paniculata* 'Pink Lady'



▲ *H. paniculata* 'Pink Wave'



▲ *H. paniculata* 'Pinky Winky'



▲ *H. paniculata* 'Pinky Winky'



▲ *H. paniculata* 'Ruby' (July) (July 2004)



▲ *H. paniculata* 'Ruby' (Aug) (August)



▲ *H. paniculata* 'Ruby'

一関市長より、御礼のお手紙を頂きました。

謹啓 晩夏の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたびの平成 20 年岩手・宮城内陸地震に際しましては、心温まるお見舞いや義援金をお寄せいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

6月14日の地震発生に伴い災害対策本部を設置し、応急対策と復旧復興対策を実施してきたところですが、8月11日に避難をされている約半数の12世帯35名に対する避難勧告を解除することができたこと及び避難指示体制の安全基準が見直されたことなどから、警戒本部体制に切り替えをいたしました。お蔭様で、現在は本格的な復興対策に取り組む段階になりましたことをご報告いたします。

今回の地震により、震源に近い地域では住宅の損壊や土砂崩れなど大きな被害を受けたところですが、皆様からお寄せいただきました義援金につきましては、被災された方々の生活復旧と復興対象のため有効に活用させていただき、一日も早い復興に向けて地域を挙げて取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

なお、義援金の収支決算につきましては、確定次第ご報告をさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。

また、被害を受けなかった旅館やホテルでキャンセルが相次ぐなど、地域経済において大きな痛手となっております。当市での被災地域以外においては従来どおりの企業活動や観光事業に取り組んでおりますので、皆様のご理解を賜りたいと存じます。このたびお寄せいただきましたご厚情に対し、略儀ながら書中をもって御礼申し上げますとともに、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈りいたします。

謹白

平成 20 年 8 月

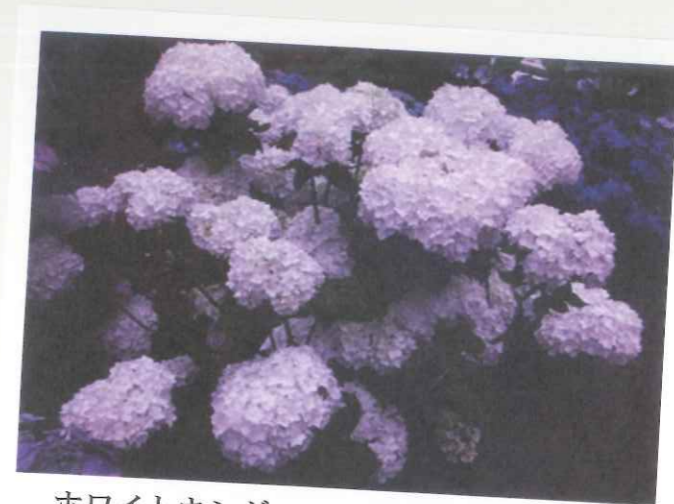
日本アジサイ協会 様

一関市長 浅井東兵衛



## 事務局だより

- \* 今回の会報は20・21号の合併号とさせていただきます。
- \* ヨーロッパより日本の園芸会社が購入したアジサイにファイトプラズマに感染したアジサイが有り、シーズンには大量に市場に出ています。日本のファイトプラズマとは型が異なっています。ご注意ください。農水省に連絡しまして、調査をお願いしました。
- \* 一関市長様より別掲のお礼の手紙を頂きました。総会の開催にご協力を頂きました一関の皆様にあらためて感謝を申し上げます。
- \* 秋田宏理事より脱会届が提出され受理しました。今後は日本アジサイ協会とは一切関係がありません。
- \* アジサイの葉を食べての食中毒が話題となりました。平成20年6月、茨城県つくば市と大阪市内の飲食店でそれぞれ料理に添えられた装飾用のアジサイの葉を食べて嘔吐、吐き気、めまい、顔面紅潮等の中毒症状を引き起こしました。原因はアジサイに含まれている青酸多糖体ではないかとされていましたがはっきりとは分かっていません。北アメリカ原産のアジサイには有毒成分が含まれて入る事は知られていましたが、はっきりとした原因究明が待たれます。
- \* 平成21年度の日本アジサイ協会総会の場所、提案がありましたら事務局までお知らせ下さい。出来れば西日本地区が望まれます。
- \* 次号の原稿を募集しています。会員各位の応募お待ちしております。



ホワイトキング

## 晩秋のアジサイ



白から緑 岩の白露



白から緑へ 紅冠雪



小糸の紅葉



お正月には咲くかな? 八丈千島

第20・21合併号 あじさい

2008年12月発行

発行 日本アジサイ協会

事務局 〒173-0037 東京都板橋区小茂根5-3-11 杉本誉晃 方

\*日本アジサイ協会事務局\*

TEL 03-3956-8423 FAX 03-3530-7707

ホームページ

<http://www9.ocn.ne.jp/~ajisai/>